

【介護拒否場面の不適切ケア】

水分摂取を拒否する場面

【クイズ】

「利用者にはこまめに水分補給するように」と言われますが、それはなぜでしょうか？

- ① 高齢者は成人よりも体内水分量が多くなるため、その水分量を維持する必要があるから。
- ② 高齢者は水分が不足しがちになり、脱水症や脳梗塞、心筋梗塞などのリスクが高くなるから。
- ③ 食事量が少ない高齢者が水分を飲まないで栄養が不足し、低栄養状態に陥るから。

【正解は】

②

高齢者は水分が不足しがちになり、脱水症や脳梗塞、心筋梗塞などのリスクが高くなるから。

【解説】

- 人間の体の約60%は水分でできている。
- この体内の水分量は**加齢とともに減少**し、高齢者は50%程度まで下がる。
- **体内の水分量が少ない**高齢者にとって、こまめな水分補給はとても大切。
- 水分が不足すると、**脱水状態**はもちろん、**脳梗塞**や**心筋梗塞**の発症につながりかねない。

【クイズ】

利用者に水分を勧めても拒否されることがあります。その要因として考えられるものは？

- ① 高齢者は喉の乾きを感じにくくなっているから。
- ② 喉の乾きを感じていても自ら水分を控えようとしているから。
- ③ 認知症の症状が原因で水分を摂らなくなることがあるから。

【正解は】

- ① ② ③

全て当てはまる要因です。

【解説】

■喉の渇きを感じにくくなっている。

- 高齢になると体の**感覚が鈍くなり、喉の乾きも感じにくくなる。**
- 水分が必要な状態でもそれに本人が気づかず、そのまま**脱水症状**に陥ることもある。

【解説】

■自ら水分を控えようとする傾向がある。

夜中のトイレが億劫であったり失禁を恐れるなどの理由から、水分を控えているということが考えられる。

【解説】

■飲んでいないのに飲んだばかりだと思っている。(記憶障害)

- 記憶障害は**認知機能障害**(認知症の方に共通して見られる症状)の一つ。
- 近い記憶から障害されていく。
- 近い記憶であっても**嫌な記憶は残りやすい**傾向にある。

【解説】

■ 飲み物を飲み物と認識できていない。
(失認)

- 失認も**認知機能障害**の一つ。
- 失認とは、視覚や聴覚などの感覚器に障害がないのに**物を認識できない**症状。
- 飲み物を飲み物と認識できず水分摂取拒否につながることもある。

【クイズ】

水分を拒否する利用者に対し、正しい対応は？

- ① 「さっき飲んだ」という訴えに対し「飲んでいませんよ」と優しく声を掛け、事実を伝える。
- ② 「飲まないで脱水になったら大変ですよ」とリスクについて注意喚起する。
- ③ トイレの不安の訴えに対し「水を飲むとトイレが心配になるのですね」と復唱し、その不安の解消に努める。

【正解は】

③

トイレの不安の訴えに対し「水を飲むとおトイレが心配になるのですね」と復唱し、その不安の解消に努める。

【解説】

- 「飲んでいませんよ」「忘れているんですよ」など、**利用者の訴えを否定する**声かけをしてはいけません。
- 「飲んだばかり」という訴えは、たとえ飲んでいなくても**本人にとっては事実**を伝えている。
- こうした声かけは、利用者を**混乱**させたり**不安感**を抱かせることになる。

【解説】

- 「飲まないで脱水になっちゃいますよ」など脅すような声かけはついやってしまいがちだが不適切な対応。
- 特に認知症の人は、自分が嫌がることを強要されるとBPSDが強く出る傾向がある。

【解説】

- 「水分を摂ってもらわないといけない」という気持ちから、介護者はいきなり強要や否定の言葉を使ってしまうことが多くなってしまいがち。
- まずは本人の「飲みたくない」という気持ちを**否定せず**に**受け止める**ことが大切。
- 説得するのではなく**共感する**のがポイント！

【考えてみましょう】

- 水分摂取を拒否する利用者に対応する時、あなたはどんなケアをしていますか？
- 今までのケアを思い返し、「不適切だったかも」と思う対応を上げてみましょう。

【まとめ】

- どんな不適切ケアが思い当たりましたでしょうか。
- 利用者にとって水分摂取はとても重要です。しかしそのことだけに気を取られていると、不適切ケアにつながる可能性があります。
- 不適切なケアにより、ますます水分を摂らなくなるという悪循環に陥ってしまいかねません。
- 否定・強要（脅し）するような言葉を避け、本人の気持ちを尊重しましょう。

お疲れ様でした。